

新型インフルエンザ対策

まん延時の対応は

問

本市でも、新型インフルエンザ対策本部が立ち上がり、着々と取り組みがなされているが、まん延時の対応について、次の2点を伺う。

①マスク等のインフルエンザ対応の備蓄リストとその個数は。

②医療機関の窓口で、患者が断られたケースが報告されている。同様なケースが生じないよう医療機関への指導・対応の徹底等の取り組みと保育園が、一定期間臨時休業した場合の医療従事者や、母子・父子家庭などの保育の確保は。

答

①備蓄予定の主な物品は、防護具7千着、マスク28万枚、消毒薬3千本であり、現在、防護具7千着、マスク13万枚を備蓄している。

②他の自治体において、一部の医療機関で患者を断ったと報道されているが、本市では、適正な受診につながるよう、市医師会と連携し、診断基準などの情報をすべての医療機関へ周知徹底している。

また、新型インフルエンザ感染者が、市内で発生した場合は、感染の拡大状況に応じ、従業員の休暇取得について、企業などの理解を得ながら、一部または全保育園での臨時休業の措置をとっていく。なお、医療業務など、社会機能の維持に関する職務に従事されている保護者の緊急度合いを考慮しながら、主に公立の基幹保育園において、保育を実施していく。



河内総合運動公園「多目的広場」 夜間照明を備え22年度中にオープン

問

河内総合運動公園内に、すでに供用開始している屋内プール・陸上競技場に続いて、「多目的広場」が、来年度中に完成する予定である。そこで、次の3点を伺う。

①「多目的広場」完成後の全体の利用計画は。

②今後の利用促進には駐車場の確保が必要と考えるが、どうか。

③スポーツ少年団や学校の部活動で、子どもたちが体育館などを利用する場合、施設利用料金の無料化を図るべきと考えるが、見解を伺う。

答

①河内総合運動公園内に、夜間照明設備を備え、野球やサッカーなどが利用可能な多目的広場を、来年度中のオープンに向け、整備を進めている。

完成後は、本市北部地域の核となるスポーツ施設として、各種大会やイベントに利用されるよう、競技団体や地域などに、積極的に働きかける。



▲河内総合運動公園入口

②駐車場は、約670台分の駐車スペースを確保したところである。

今後、大規模なスポーツ大会や地区体育祭などのイベント時には、周辺の公共施設も臨時駐車場として活用し、対応していく。

③中学生以下の使用料は、原則一般の半額に設定し、プールなどの施設は、市内に在住または通学する高校生以下の児童・生徒を対象に、使用料を無料にしている。引き続き、現在の使用料の体系を維持していく。

持続可能なまちづくり 「緑のもつたいない運動」の展開を

問

①本市では、家庭で処分する植木などを、「不要樹木の斡旋事業」によりリサイクルしていたが、この事業は「都市緑化基金」の利息による運営であり、低金利時代の現在、事業は頓挫してしまっ

た。この事業の復活は可能なのか伺う。

②戸祭山緑地や八幡山、鶴田沼緑地周辺の取得事業が展開される一方、グリーントラスト運動による緑地保全が進められている。このような「緑のもつたいない運動」は様々な展開方法があるが、推進する必要性について見解を伺う。

答

①本市は、不要となつた樹木を市民から引き受け、必要としている市民に無償で提供する「不要樹木のあつせん事業」を実施してきたが、「都市緑化基金」の運用益の不

足などから、現在事業は休止している。今後は、先進事例を参考に、その活用手法について調査研究する。

②本市では、長岡最終処分場跡地に苗木を植えることで、失われた自然を回復する植樹事業に取り組んでいる。

このような「緑のもつたいない運動」は、ヒートアイランド現象の緩和や温室効果ガスの吸収源対策として、持続可能なまちづくりの有効な手法のひとつと考えられていることから、今後も緑の保全・創出に努めていく。



▲長岡最終処分場跡地での植樹活動